

第3回 全国都市緑化仙台フェア基本構想懇談会 議事概要

日 時：令和2（2020）年9月4日（金）14：00～16：00
会 場：TKP ガーデンシティ仙台勾当台
委 員：涌井座長 遠藤副座長 内海委員 工藤委員 古積委員 今野委員
佐藤（修）委員 佐藤（重）委員 佐藤（美）委員 深松委員
本郷委員 舩谷委員 渡部委員 計13名（欠席：庄子委員）
オブザーバー：国土交通省東北地方整備局建政部 柳原都市調整官
事務局：建設局次長 百年の杜推進部長 百年の杜推進課長
同課全国都市緑化フェア推進担当課長 公園課長 同課公園整備担当課長
河川課長 計7名

1. 開会

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- －開会－
- －前回欠席委員へ自己紹介を依頼－

○工藤委員

- ・南光台東小学校の工藤です。学校では緑化委員会の活動や学校と地域で緑化に関する教室などを行っている。仙台の緑化フェアに子どもが参加することで何かプラスの変化が生じるといい。

○渡部委員

- ・東北芸術工科大学の渡部です。コロナ禍により人々が本質的なことに気づくなど世の中が変化してきている中で、仙台の緑化フェアがつくり出す空間や活動による価値を未来に残すことができるといい。

2. 議事

○涌井座長

- －事務局へ定足数確認依頼－

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- －定足数を超過している旨報告－

○涌井座長

- －会議を公開とすることの確認（委員一同了承）、議事概要作成を工藤委員へ依頼（工藤

委員了承) -

2. (1) 議事：全国都市緑化仙台フェア基本構想（中間案）について

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- 「資料1 全国都市緑化仙台フェア基本構想骨子 追加意見」を説明。質問項目について次のとおり回答-
- ・シンボルマークについては仙台市でも利用できるよう著作権等について留意したい。
- ・まちなかエリアの範囲についてはご指摘のとおり青葉通の南側も含めた。

○事務局

- 「資料2-1 全国都市緑化仙台フェア基本構想（中間案）」を説明-
- 「資料2-2 全国都市緑化仙台フェア基本構想（中間案 概要版）」を説明-

○舩谷委員

- ・基本構想ではメイン会場において水辺へのアクセスを確保することとなっているが、追廻地区の川岸にある石垣は河川管理の護岸ではなく武家屋敷時代の護岸であるため、河川管理上触れられず、崩れた石垣の撤去には文化財の手続きが必要と認識している。どのような認識か。

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・文化財のためその制約があることを認識している。土木事務所とも協議をしながら検討を進めていきたい。

○事務局（公園整備担当課長）

- ・石積みが部分的に崩れている箇所から川へのアプローチが可能かどうか文化財課と協議を行っている。方向性が見え次第、河川管理者と協議を行いたい。

○深松委員

- ・P14（1）に「青葉山の豊かな自然や、藩政時代以来の歴史や文化に触れることができる会場とします。」とあり、前回の懇談会で「日本庭園」という話があったが、どういう形を考えているのか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・（仮称）公園センターにおいて追廻地区の歴史に触れられる展示などを考えている。
- ・追廻地区において本格的な日本庭園までできるかは今後の検討だが、そういったものも考えていきたい。

○事務局（建設局次長）

- ・追廻地区で緑化フェアまでに(仮称)公園センターの建設をするが、この建物は青葉山公園あるいは青葉山のビジターセンターとしての役割を担っており、フェア来訪者に青葉山の歴史や文化などを発信する役割を担うこととしている。
- ・(仮称)公園センターの建築物の西側において、仙台城の御裏林に対して“オモテ林”というコンセプトの森をつくる計画があり、仙台の郷土種を中心に植栽し、散策もできるように考えている。ここに庭園的な要素を入れこんでいく形で、伝統的な庭にとこまで近づけるかは今後の検討だが、考えていきたい。

○渡部委員

- ・まちなかエリアの範囲は様々な市民とつくっていくという意味で街の中にもう少し広がっているイメージを持っている。予算などの制約もあると思われるが、今の段階でここまで絞る必要があるか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・ある程度集中的に行う範囲が必要と考えてまちなかエリアの範囲を地図に着色したが、まちなかエリアは地域の商店街や事業者の参画により成り立つエリアで他の地区からの提案も予想され、フェアの賑わいが広がっていくものと考えているため、色付けしたエリアに限定しているわけではない。

○渡部委員

- ・この絵（まちなかエリアの範囲）だど、どこかで切られているように見えるため、今後のパブリックコメントなどで見せ方に工夫が必要だと思う。

○古積委員

- ・第2回懇談会でメイン会場西側の博物館と茶室の利用についての質問をしたが、それはどうなるか。
- ・P14（1）の「大規模花壇や多彩な庭園」の規模はどの程度を想定しているのか。

○事務局（建設局次長）

- ・「残月亭」はもともと青葉山にあったものが石巻で発見され、仮に博物館の前に移築された経緯がある。文化財の調査でも必ずこの場所になければならないというのはわからない状態であり、今回のフェアに合わせて対応できるかも含め最適な移築場所を検討する。
- ・メイン会場の大規模花壇の規模については今後の基本計画等で検討する。

○本郷委員

- ・緑化フェアへの来場者数がおよそ 100 万人以上とのことだが、地元と他の地域の内訳はどのように想定しているか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・直近の信州フェアにおいて県外からの来場者は 3 割程度であり、山口フェアでも同程度とのことである。仙台の方が広域的な集客力があると思われるが概ねそのような割合と思われる。

○遠藤副座長

- ・数日前から仙台市基本計画の中間案に関するパブコメが始まったが、中間案では青葉山から仙台駅、榴岡、宮城野原までが交流・賑わい軸として示されている。これらはケヤキ並木で繋がっており、榴岡公園は明治時代に東公園と呼ばれ西公園との結びつきもある。さらに仙台駅東のエリアでは事業者がまちづくりに取り組んでいるため、仙台駅から青葉通の方だけでなく、宮城野通側もまちなかエリアの範囲として検討してほしい。

○涌井座長

- ・都市局がポストコロナで進めていく事業は「WE DO (W: Walkable、E: Eyelevel、D: Diversity、O: Open)」であり、歩いて、楽しくて、ヒューマンスケールで美しく見えるような街の作り方である。また、今日まで東京駅前の大丸有の丸の内通りで、大規模な社会実験として約 2 週間、車道を完全に通行止めにし、枯れるとわかっていながら芝生を植えている。去年も行った同様の社会実験では、沿道店舗の売り上げが 3 割増加した。緑や花は、購買行動まで触発する。これは、三菱地所や大丸有（大手町、有楽町、丸の内）が積極的にこうした実験をやっているものである。他にも、河川では堤外地と堤内地を一体化して総合治水対策を考えており、道路では道路法改正により歩道の幅員拡幅や利用といった話になっている。以上をふまえたときに、P16 の「メイン会場事業展開イメージ」は整備計画であり、整備計画が会場計画であるという捉え方は非常に矮小化したものと言える。ランドスケープの視点からは、緑の効用の大きさについて、杜の都であればこそ市民へ説明しわかってもらうことが大事である。先人による緑の取り組みの背景があり、どこよりも緑の基盤がある仙台は、新しいライフスタイルの提案の可能性を持っている。そういったところまで発想を広げてほしい。
- ・また、企業や市民の参加を募ることはいいが具体的な内容が示されていない。中間案には S D G s が出てこないが、商店街や沿道の企業が緑化フェアに参画することで「S D G s のこの部門について貢献している。」と標榜できれば、非常に参加しやすく大きな誘因になりうる。社会と一緒に緑を充実させる方法を考えることが重要である。

○事務局（百年の杜推進部長）

- ・フェアの理念と会場整備をしっかりと区分して表現すべきであった。事業展開イメージの図面などを見直したい。
- ・仙台市は未来都市計画という SDGs に関する計画を公表したところであり、社会性との関りをふまえ内容を修正したい。

○佐藤（修）委員

- ・東部エリアに関し、旧荒浜小学校では県内の小学校などが震災に関する学習に訪れる姿が見られる。
- ・その隣に荒浜地区の海岸公園センターハウスがあり、ここを拠点に「ふるさとの杜再生プロジェクト」は活動している。プロジェクトは 30 年計画であるが、今年 10 月で植樹は終わり、今後の活動は育樹となる。
- ・センターハウスに隣接する県有地は活動のため借りられることになっており、震災による防災集団移転跡地である仙台市有地についても次世代を担う子どもの環境教育の活動拠点とするため借用を交渉しているところである。
- ・子どもたちが荒浜小学校を見学するとともに、今つくろうとしている環境教育の拠点でどんぐりを植えたり苗木を育てたりする体験ができるよう、震災、減災教育というものをトータルで考えてほしい。
- ・次の世代の人たちの環境教育の拠点づくりについて、緑化フェアの中ではビジョンが全く見えてこないのが残念に思うので、しっかりと取り組んでほしい。

○事務局（百年の杜推進課長）

- ・緑化フェアでは東部地区を震災からの復興を発信する場として位置付けており、エクスカッションで見てもらうだけでなく、これまでの活動を知ってもらい、一緒に体験してもらえたらと思っている。
- ・発言のあったエリアは圃場としての重要性が高まってきていると認識しており、フェアの中での位置づけのみならず、今後の仙台市の復興の取り組みとして財政などと協議もしながら進めていきたい。

○内海委員

- ・まちなかエリアに仙台駅の東側も含めるといった意見に関連して、X 橋から榴岡公園をつなぐ道路は幅員が広く立派だがグレーインフラである。緑化フェアでグリーンインフラを発信するには寂しい状況であるため何かできるとよい。

○事務局（百年の杜推進部長）

- ・意見のあった元寺小路福室線は杜の都の環境をつくる審議会でもたびたび話題になり、

トチノキが中央分離帯に植えられているものの周囲のスケールに対して小さいとの指摘を受けている。

- ・できるだけ緑を充実できるよう関係課と協議を進めようとしているところであり、今後も検討を行っていききたい。

○佐藤（美）委員

- ・東部エリアの内容は緑とのつながりが薄く震災復興が中心となっているため、「なぜ緑化フェアで？」という印象を受ける。東部エリアはグリーンインフラの話なども絡めてアピールするといいと思われる。
- ・徒歩による周遊移動の促進に関して、雨天も楽しめるようにするためには商店街や事業者の協力が必要だと思う。
- ・私たちは西公園の北側で活動しているが、会の中でフェアに関わりたいという声があがっている。そのような市民の力をうまく取り入れてほしい。

○佐藤（重）委員

- ・追廻地区の河川敷の植栽は、大雨により増水した場合大丈夫か。
- ・緑化フェアの期間中、植栽の植え替えなども必要になるのか。また植栽後の管理をどうするのか。
- ・フェアで整備したものは残るのか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・河川敷では大雨による増水も考えられるため、今後、整備範囲等を検討していく。
- ・緑化フェアを開催する前年の秋に球根や種など、開催年の2月末頃から苗物を植えていく。会期中の植え替えも種類によっては必要と考えている。
- ・フェアで整備したものをどう残していくかについては現時点で答えられる状況ではないが、その点も考えながら整備を進めていく必要があると認識している。

○事務局（百年の杜推進部長）

- ・河川敷の花については、ワイルドフラワーの種を蒔いて時期がずれながら花が咲く方法など、極力植え替えをしないで長期間楽しめるような方法を考えている。

○涌井座長

- ・レガシーとして大事なものは有形物よりも無形物である。仙台市民の日常において花や緑に対する見方が変わってきた、暮らしの中に花や緑が入ってきた、ボランティアに若い世代が参加し始めたなど、緑化フェアが行動変容の契機になることが一番大きい成果と言える。「～公園」や「～施設」が整備されたということだけが大事ではないこ

とを念頭においてほしい。

○今野委員

- ・ 中間案を見て穏やかで温かなフェアという印象を持った。
- ・ 前回の懇談会で「来場者のメインが 50~60 代の女性」という話があったが、そこを広げていく視点がもう少しあった方がよい。例えば、大学生がグリーンインフラをテーマに提案する展示や、中高生の生徒会が競って何かをやるなど、若い人たちが当事者意識を持って取り組める視点があるといい。
- ・ 仙台市の総合計画の“The Greenest City”のように攻める観点みたいなものがあることで、緑化フェアに対して共感を持ってくれる対象が広がると思うため、チャレンジフルにやっていくという姿勢を示すことが大事ではないかと思う。

○涌井座長

- ・ 良いものをより良くするだけでなく、社会的大変容を緑化フェアから起こすため、もっとチャレンジフルで新しい産業などにも通じるアグレッシブな考え方もあってほしいのではないかという意見だと思う。

○工藤委員

- ・ 子どもの参加数はどの程度見込んでいるのか。また、どんな方法で参加を募るのか。
- ・ 多くの子どもが緑化フェアに参加することで、子どもの意識や心の健康にいい効果が生まれることを期待している。
- ・ 小学校では防災に力を入れているが、全国から集まった子どもと一緒に植樹することで、復興に参加したという体験をしてもらうこともよいと思う。

○舛谷委員

- ・ かつて東部エリアには運河とそれを囲むクロマツ林による固有の景観があったが、津波により壊滅した。この景観を取り戻すという観点で何かできないか。既に植樹などの取り組みは行われているものの林になるまでは時間がかかり、かつての風景を思い起こすことができる人も少なくなっていく。

○事務局（建設局次長）

- ・ 東部エリアは防災林の植樹ということで震災と緑が繋がり、多重防御という形で緑が活かされている。そういった現場を子どもから大人まで見てもらいたいと考えており、行催事計画の事業展開イメージにも記載している。
- ・ 出展計画の中で学校も位置づけているが、小学校から大学まで広く参加してもらいたいと考えている。

○本郷委員

- ・緑化フェアが行われる4月下旬から6月上旬は、ハーフマラソンや青葉まつりなど全学的な行事が行われるが、例えばハーフマラソンのときに沿道を花や緑で飾ったり、緑化フェアの会場ですずめ踊りをしたりすることで相乗効果が得られる可能性もあるため、検討してほしい。

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・ハーフマラソンは全国から出場者や関係者が集まるイベントで、しかも緑化フェアの会場である西公園と追廻地区の間や定禅寺通の新緑の中を走るため、文化観光局と連携しながら取り組んでいく。

○涌井座長

- ・某県の公園において、コスプレ団体の協力により花の妖精のようなスタイルで公的なイベントに参加することで、公園利用率が上がったケースがある。メインストリームを対象にしがちだが、サブカルチャーからメインストリームへ移ったものが次の文化になるため、サブカルチャーも含め色々な団体と手を組むことは大事である。
- ・仙台の居久根は世界に誇るべきグリーンインフラであるが、昔から既にあったものである。地域に育まれてきた伝統的なグリーンインフラに対して高い評価を与えた上で、更に新しいグリーンインフラを取り入れていくという観点が大事である。
- ・仙台における一つの大きな歴史のうねりの象徴として、日本庭園や「オモテ林」、「残月亭」などを組み合わせた展開の仕方を考えると、奥が深くなるのではないかと思う。

○深松委員

- ・仙台の新緑はきれいであるが、フェア開催期間の4月下旬から6月中旬の前半と後半で新緑の見え方が変わり、2回来て感じてもらいたいため、そのことをアピールしてほしい。
- ・国際センターでは様々なコンベンションがあるため、コロナの状況次第だがコラボを考えてほしい。
- ・バーチャルリアリティを活用し、仙台の街路樹の将来の姿を子どもに感じてもらうのはどうか。これから大きくなる街路樹や、逆に時間が経過して植え替えを考えなければならない街路樹などを子どもに感じてもらえたらと思う。
- ・学校で写生大会やこれにあわせて何か体験をすることで、子どものときに全員で参加したという記憶が残ると思うため、そのようなフェアになればよい。

○涌井座長

- ・これまでの都市緑化フェアでは、小学生が花の苗を育て展示するものは多い。

- ・愛・地球博において、生徒が学校の周囲の自然を折り紙などで表現した展示を見て、多様な自然の見方があることに気づかされた。
- ・教育機関と連携しながら次の世代を育てる ESD（Education for Sustainable Development）のような考え方は大事だと思う。

○渡部委員

- ・最近自分が20年前に植えた木を最近切っているが、切らなければならないが愛おしく思ったり、20年という時間の流れを感じたりする。緑化フェアでは祭りとしての分かりやすさや華やかさも必要だが、植樹や育樹で自分たちがつくった緑を将来見る機会があればレガシーや想いになると思う。
- ・P18の出展計画に記載された内容はP16の出展ゾーンで行われるものか、それともまちなかでも行われるのか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・庭などはP16の出展ゾーンを想定しているが、プランターやハンギングバスケットなどは商店街などの協力も得てまちなかへの展示することも可能と考えている。
- ・今後、出展者や商店街の協議会などと協議をしながら検討していく。

○渡部委員

- ・例えば企業とタイアップした新しい技術の展示により効果を示せれば説得力があるし、これが街のリニューアルのきっかけになる可能性もあるため、そのようなことも盛り込んでほしい。
- ・今回の資料では、出展計画と出展ゾーンが連動して見えるので整理して示せるとよい。

○涌井座長

- ・一般的に都市緑化フェアの出展は、自治体による庭園の出展、造園関係団体が技術やデザインなどを表現する競技スタイルの出展、ハンギングバスケットなどである。
- ・企業とコラボレーションして小さな空き地にバーチャルポケットパークをつくり、街の風景を変えるような提案があってもいいと思う。

○内海委員

- ・会場内に駐車場は設けるか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・来場者数をふまえて駐車場を設けた場合は追廻地区のほとんど全てを駐車場とする必要があるため、一般の駐車場は設定しない予定である。団体用バスや配慮の必要な人

のための駐車場は敷地の中に整備したいと考えている。

○内海委員

- ・フェア開催時に仙台商業跡地は駐車場のままか。

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- ・駐車場のままである。

○古積委員

- ・ジャズフェスや青葉まつりのとき定禅寺通では、車両を通行止めにするだけでケヤキ並木を眺めながらゆっくりと過ごせる空間となっている。片側だけの通行止めや毎日ではなく隔週の土曜日や日曜日でも構わないため、そのような検討をしてほしい。
- ・P18 の出展計画に記載された造園業者や園芸団体の出展コンテストに関連して、専門家だけでなく若い人が対象のデザインコンクールを実施し、優勝作品を専門業者がつくる企画があれば、若い人が自分のデザインが形になる経験ができるためいいと思う。

○遠藤副座長

- ・先日の地元紙に掲載されていた杜の都のイメージに関する市民アンケートでは、約 8 割が杜の都のイメージは街路樹の緑と回答しており、懇談会で話に出ている居久根は非常に少なかった。緑化フェアでは街路樹のみならず杜の都を象徴する様々なみどりを紹介していくといいと思う。

○涌井座長

- ・今日の意見をベースにして今後設立される実行委員会が事業計画をたて、行政はそれに対応した整備をしていくこととなるため、今日はとても意義がある懇談会であった。

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- 「資料3 パブリックコメント実施について」を説明—
- 懇談会の意見を踏まえ事務局が涌井座長と協議の上で基本構想中間案を修正することを確認（座長及び委員一同了承）

3. 開会

○事務局（全国都市緑化フェア推進担当課長）

- 閉会—